INFORMATION

説明会のご案内

大学院での学びに関心のある方、
受験をお考えの方は、ぜひ説明会にご参加ください
演習担当教員に直接質問することができます。
入学前に不安や疑問を解決されることをおすすめします。

※参加者数によって多少の時間が前後することがあります。
※説明会参加のご都合がつかない方は、電話・メールなどでお気軽にご相談ください。
※日程によって会場が異なりますのでご注意ください。

入試説明会の
予約はこちらから

経済経営研究科

専攻	日程	時間	会場
経済学／経営政策	2024年 8月31日（土）	10:00～11:30※1	名古屋キャンパスしろとり
	2024年11月30日（土）		名古屋キャンパスひびの

外国語学研究科

専攻	日程	時間	会場
英語学／国際文化協力	2024年 8月31日（土）	11:30～13:00※1	名古屋キャンパスしろとり
	2024年11月30日（土）		名古屋キャンパスひびの

通信制大学院

専攻	日程	時間	会場
英語学（博士前期） 英語学（博士後期）	2024年 8月31日（土）	10:00～11:30※1	名古屋キャンパスしろとり
	2024年11月30日（土）		名古屋キャンパスひびの
	2025年 2月 2日（日）	11:00～16:00※2	東京（新宿エルタワー）
	2025年 2月 8日（土）		大阪（梅田スカイビルタワーウエスト）

※１ 本学主催説明会は事前予約が必要となります。2日前までにご予約ください。
※２（公財）私立大学通信教育協会主催となります。

ACCESS MAP

名古屋キャンパスひびの	地下鉄名港線「日比野」駅 5番出口より直結
名古屋キャンパスしろとり	地下鉄名城線「西高蔵」駅より徒歩8分 地下鉄名港線「日比野」駅より徒歩8分

※2025年度入学試験要項は本学ホームページよりダウンロードをお願いいたします。

お問い合わせ先
名古屋学院大学大学院事務室
〒456-0062 愛知県名古屋市熱田区大宝３-１-17
名古屋キャンパスひびの７階
TEL：052-678-4076　MAIL：ngugs@ngu.ac.jp

名古屋学院大学大学院

With
All Your Heart
その一歩を、ともに。

大学院案内 2025

名古屋学院大学大学院

名古屋学院大学大学院の3つの特色

POINT①

働く社会人にも学びやすい、開かれた学び舎

本学大学院は、社会人や留学生を幅広く受け入れ、丁寧で密度の濃い研究指導を展開しています。院生の年齢層も、30、40歳代を中心に、20～70歳代まで多岐にわたっています。講義時間を主に平日夜間と土曜日とするなど、忙しい社会人でも無理なく通学し、研究に臨める環境を整えています。

時間割		
・経済経営研究科	平日／主に 18:15-21:15	土曜日／9:30-16:45
・外国語学研究科	平日／主に 9:00-18:00	土曜日／9:30-16:45

■名古屋キャンパス
（ひびの・しろとり・たいほう）

■学術情報センター
（名古屋キャンパスしろとり）

■キャリアセンター
（名古屋キャンパスしろとり）

施設紹介はP.14をご覧ください。

POINT②

目的に応じた実学重視のコース設定

経済経営研究科では、税理士試験の一部科目免除を目指すコースをはじめ、目指す分野や目的、習得したいスキルや資格に応じた各種コースを設けています。また、外国語学研究科では、通信制大学院（英語学専攻博士前期・後期課程）を設置し、時間と場所を選ばず、優秀な教授陣によるハイレベルな指導が受けられます。

税理士試験の一部科目免除の詳細はP.6をご覧ください。

POINT③

学ぶ意欲を支援する各種制度の充実

各種奨学金など、学習意欲を支援する様々な制度が充実。仕事や出産などの事情でフルタイム院生としての修学が困難な方向けに、長期履修制度も設けています。また、セミナーや研究会など、人的ネットワークを築ける機会も豊富です。

支援制度の詳細はP.13をご覧ください。

学長メッセージ

変革期にこそ欠かせない「考える力」徹底的に考え抜く講義で未来を拓く力を養う。

名古屋学院大学 学長 赤楚 治之

生成AI、DX、メタバースなど、時代を映し出すキーワードが次々と登場し、私たちを取り巻く環境は大きく様変わりしようとしています。そのような変革の社会を生きて行く上で最も大切なもの、それは人間の考える力ではないでしょうか。最近の新型感染症の世界規模での拡大も一つですが、予期せぬ事態が起きた時にも、自らの頭で考えるということが重要になってきます。大学院では、様々な分野を専門的に学び、徹底的に考え抜くことが求められます。そこで得られる「考える」経験は、変動する新たな社会を生き抜くうえで重要な土台となるのです。

本大学院は、皆さんの学びに対する大きな志に全力でお応えします。夜間・土曜開講の実施、通信制での一貫した博士号取得プログラムの設置など、職をお持ちの社会人の方々にも学びやすい環境を準備しています。大学院で、教授や仲間とともに一つのことを徹底的に考えたという経験は、何物にも代えがたい「財産」となります。それは、キャリアのみならず、人生の様々な局面においても、大きな意義を持つことになるに違いありません。皆さんご自身の人生を豊かなものにするためにも、ぜひ本大学院で充実した研究の喜びを体験していただきたいと思っています。

名古屋学院大学大学院 基本理念

真理の探究を通して高度な専門知識を体系的に身につける。さらに、社会実践を踏まえた幅広い視点からの議論や思考実験の繰り返しにより、その知識を時代や社会ニーズの変化に応じて的確に適用、応用できる高度な運用能力を養成。地域の国際化と経済の発展に寄与する高度職業人を育成する。

詳細はP.3～P.6へ

経済経営研究科

経済学専攻 修士課程／経営政策専攻 博士（前期・後期）課程

経済経営研究科の特徴	求める人材像	授与される学位	活躍するフィールド
経済学専攻 ポリシー・メイキング（政策立案）の能力を備えたプロフェッショナルの育成	● 企業、行政、地域における現実課題を解決するために研究を深めようとする方	● 修士（経済学）	● 企業や自治体 ● 経営コンサルタント ● 中学・高等学校の教員 など
経営政策専攻 実践に役立つ理論・技法の修得と徹底した現場主義の学び	● 経営者、行政官、資格取得などを目指す方 ● 職業人として、直面する課題の解決策を見出そうとする方	● 博士前期課程／修士（経営学） ● 博士後期課程／博士（経営学）	● 経営や企画分野の実務リーダー ● 税理士事務所や経営コンサルタント ● 大学教員や教育関連 など

詳細はP.7～P.10へ

外国語学研究科 通学制

英語学専攻 修士課程／国際文化協力専攻 修士課程

外国語学研究科（通学制）の特徴	求める人材像	授与される学位	活躍するフィールド
英語学専攻 優れた語学教育の実践に向け高度な理論とスキルを修得	● 英語のスペシャリストを目指す方 ● 中学・高等学校の英語教員を目指す方 ● 予備校・塾などで英語教育に携わる方	● 修士（英語学）	● 英語教育をはじめとした教育関連分野 ● 海運業などの英語を使う業界 など
国際文化協力専攻 院生間の相互交流も深め高次元な国際的視野を養う	● アジア諸国を中心に、異文化理解や国際協力について幅広く研究したい方 ● 日本文化を世界に発信するために、日本語や日本文化について深く研究したい方 ● NPOやNGO活動に取り組む意欲を有する方	● 修士（国際文化協力）	● 外資系企業、海外に進出する企業、国際機関 ● 地域社会、教育機関、官公庁 ● 民間研究所、行政機関、大学職員 など

詳細はP.11・P.12へ

外国語学研究科 通信制大学院

英語学専攻 博士（前期・後期）課程

外国語学研究科（通信制）の特徴	求める人材像	授与される学位	活躍するフィールド
英語学専攻（博士前期過程） 3領域を必修科目にして自信を支える柱をつくる	● 学生時代の修得を基礎にしてこれまでの経験を重ね、さらにレベルアップを望む方	● 修士（英語学）	● 高度な英語能力を活かせる職場 ● 中学・高等学校の教員 など
英語学専攻（博士後期過程） 研究者としての自立した研究活動を徹底サポート	● 自立した研究を通して、英語学に関わる研究者を目指す方。また国際社会での活躍を志す方	● 博士（英語学）	● 高等教育機関の教育者、研究者 など

経済経営研究科

経済学専攻 修士課程

幅広い視野で社会の課題を発見し、解決策を提言できる人材を育成

ポリシー・メイキング（政策立案）の能力を備えたプロフェッショナルの育成

経済学専攻は専門的な能力を備えたプロフェッショナルとして働くことを目指している学部卒業生、留学生、学部を卒業して一度就職した後に大学院に進学してきた方に対して、キャリア形成や生活設計の選択肢を広げることにつながるように、専門的な知識に裏付けられた政策立案能力を鍛える科目群を用意しています。経済学専攻の特徴は経済学だけでなく現代社会の諸問題を対象とする隣接分野の社会学、都市政策論、まちづくり論などを学修・研究することができることです。理論研究からデータ処理、フィールドワークなど多様な方法を駆使してすすめられる経済学と隣接分野の科目について学修・研究を積むことで、職場での実践に活かすことや将来の可能性を広げることにつながるよう指導していきます。

教育研究上の目的

経済学の理論と応用に精通し、研究能力や政策の立案・遂行能力を有する人材、より高度な実務能力を発揮する人材、社会・経済の幅広い教養を備え地域社会をリードする人材を育成します。

求める人材像

- 企業、行政、地域における現実課題を解決するために研究を深めようとする方

授与される学位

- 修士（経済学）

活躍するフィールド

- 企業や自治体
- 経営コンサルタント
- 中学・高等学校の教員　など

取得可能な免許

- 中学校教諭専修免許状（社会）
- 高等学校教諭専修免許状（公民）

研究活動の流れ（2年分）

1年次 春・夏
- 新入生ガイダンス
- 資料の収集など論文執筆の準備
- 課題レポート提出

1年次 秋・冬
- 資料の収集など論文執筆の準備
- 修士論文のテーマ設定
- 課題レポート提出

2年次 春・夏
- 修士論文作成
- 中間発表
- 課題レポート提出

2年次 秋・冬
- 修士論文計画書提出
- 修士論文提出
- 最終試験（口頭試問）
- 修士号取得

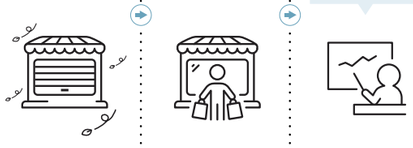
教員紹介

シャッター通り商店街を活性化させることは可能か？

商店街の衰退要因を各種データから読み解くとともに施策について調査する。

賑わっている商店街の成功要因を現地取材などを通じて明らかにする。

名古屋市内の商店街の協力を得て活性化事業の社会実験を行い、政策提言を行う。



水野 晶夫 教授

研究テーマ

都市政策論では、都市がかかえる様々な問題とその解決策を考えます。少子高齢化・人口減少という社会構造の変化に対してどのようにして都市が持続可能な形で経済成長をしていくか、産業振興や観光まちづくり、社会資本整備などの観点から現況を概観するとともに成果をあげるための政策を検討します。

地域社会に重要なのは10のエビデンスより1の成功体験だと思います。地域にしっかりコミットして関係づくりや成功させるための事業を見極めて有効なエビデンスを活用し、成果に繋げることを大切にしています。

伝統産業の振興や文化を活かした、地域の望ましいあり方とは？

各論で地域を分析する上で、支柱となる学術理論を研究する。（総論）

地域の生産実態の推移などを、データをもとに分析し、諸課題を抽出する。

他産地における政策との比較考察を通じて、当該産地における政策のあり方を検討する。

古池 嘉和 教授

研究テーマ

地域における伝統産業の振興や文化を活かしたまちづくりに照準を当てた調査などで、地域経済を考察。経済と文化、工芸とデザインなど領域を横断した学際的な視点で、地域社会の状態変化が生じる因果律を究明し、地域の望ましいあり方を模索しています。

研究者として最も大切なことは「問いを立てること」であり、その答えを地道に追究する姿勢が求められます。日々、蓄積されていく知識により、光明がさす喜びは何にも代えがたい瞬間です。

CURRICULUM

専門科目群

- マクロ経済学研究
- ミクロ経済学研究
- 社会経済学研究
- 計量経済学研究
- 情報経済論研究
- 国際経済論研究
- 日本経済史研究
- アジア経済史研究
- 経済成長論研究
- 比較経済システム研究
- 経済政策論研究
- 財政学研究
- 地方財政論研究
- 金融論研究
- 資産運用論研究
- 貿易政策論研究
- 産業組織論研究
- エネルギー政策研究
- 環境経済政策研究
- 都市政策論研究
- 国際地域開発研究
- 社会政策論研究
- 福祉政策論研究
- 社会学理論研究
- 経済社会学研究
- 地域政策論研究
- 地域マネジメント研究
- 自治体戦略論研究
- まちづくり論研究
- 比較地域論研究
- 民法研究
- 民法事例研究

演習科目

- 理論経済学演習
- 計量経済学演習
- 経済史演習
- 情報経済論演習
- 国際経済論演習
- 財政学演習
- 金融論演習
- 産業組織論演習
- 資源経済論演習
- 経済政策論演習
- 社会政策論演習
- 社会学理論演習
- 都市政策論演習
- 地域政策論演習

PICKUP STUDY

［産業組織論演習］

一つの産業をテーマに問題抽出から解決策の提案まで

ミクロ経済学の応用分野である産業組織論には、理論分析だけではなく現実の産業に対して提言を行うという役割が常に期待されています。この演習では、修士論文の研究テーマとして一つの産業を設定してもらい、その産業を構造・行動・成果の視点から分析していってもらいます。その上で、当該産業の抱える問題点を抽出し、解決策を提案するという作業を行っていくことになります。

［地域政策論演習］

複雑な地域社会の解明で導き出す政策的インプリケーション

演習の対象となる“地域”とは、実に複雑な社会です。多岐に絡み合う要素をいかに分解・整理し、解読していくか、その前提には理論的な支柱が必要です。従って、理論的思考を鍛え上げ、それを基に対象となる地域の解読に臨みます。一方、実際の現場から得られる情報も貴重です。そこから個々の地域社会の抱える現状や課題を正確に抽出し、こうした現実の姿と先の理論を重ね合わせて政策を導き出し、あるべき地域の姿をデザインします。それは、終わりなき知的営為であるとともに、手ごたえのある実践的な活動でもあります。決して平坦な道ではありませんが、志のある方は是非、研究の扉を開けてみてください。

STUDENT VOICE

地域の観光促進のために設立されるDMOの現状と課題について研究中。その改善策を探しています。

名古屋学院大学現代社会学部在籍時に学んだ「地域の抱える諸問題」をより深く研究するため、大学院への進学を決めました。数ある選択肢のなかで本大学院を選んだのは、先生方の存在が身近で指導も手厚く、図書館などの施設も充実しており、自分の研究が進めやすい環境が整っていると感じたからです。学部生時代から馴染みのあるキャンパスで引き続き学べることも魅力でした。研究テーマは「地域DMOの現状と課題について」。地域の観光促進を目的に設立されるDMO（観光地域づくり法人）の現状について、実際の取り組み事例から現状における課題を見出し、今後DMOが発展していく上でどんな改善策が必要なのかを研究しています。大学院では、自分でアクションを起こすことが大切です。自分の手と足を使って得た情報ほど貴重なものはありません。研究を通じて身についた「自主的に学び、行動する」という姿勢を、社会に出てからもしっかり活かしていくつもりです。

経済学専攻 修士課程修了　坂井 弘樹

修士論文タイトル例

- 中国における漁業資源の現状と管理方法
- ベトナムの稲作農業 ―現状と課題―
- 商店街活性化における地域連携の可能性
- 医療提供体制のあり方と地域医療としての小児医療の課題 ―医療保障の範囲と役割をめぐって―
- 官民協働による環境整備事業の一考察 ―甲良町におけるグラウンドワーク活動を事例として―

経済経営研究科

経営政策専攻

博士前期課程　博士後期課程

経営学の理論と応用に精通したこれからの専門的職業人を養成

実践に役立つ理論･技法の修得と徹底した現場主義の学び

博士前期課程は、経営や財務に関する高度な理論・技法が身につくよう実践に役立つ理論・技法を中心にカリキュラムを編成し、実務経験豊かな教授陣が指導を行います。また、税理士試験の一部科目免除を目指す演習も用意しています。博士後期課程は、院生のほとんどが企業や公共機関の管理職として、経営の実務経験者であり、現実の経営活動から得られた知識に基づいて実証的に研究を進め、3年間での博士論文完成を目指した指導を行います。

教育研究上の目的

博士前期課程では、経営学の理論と応用に精通し、組織の経営･管理に関する研究能力とより高度な実務処理能力を発揮する人材を、博士後期課程では、高度な専門業務に従事するために必要な能力と学識を有する人材を育成します。

求める人材像

- 経営者、行政官、資格取得などを目指す方
- 職業人として、直面する課題の解決策を見出そうとする方

授与される学位

- 博士前期課程／修士（経営学）
- 博士後期課程／博士（経営学）

活躍するフィールド

- 経営や企画分野の実務リーダー
- 税理士事務所や経営コンサルタント
- 大学教員や教育関連　など

取得可能な免許

- 博士前期課程／高等学校教諭専修免許状（商業）

博士前期課程

税理士、経営コンサルタントとしての実践力を養成

経営や財務に必要な高度かつ専門的な知識とスキルを養成するコースです。税理士試験の一部科目免除を目指す演習では、判例の研究を中心に行い、税法･会計について深く研究。講師陣には、実務経験豊かな税法のスペシャリストを加え、実践的な指導を展開しています。また、本専攻に開設している多彩なビジネス科目の履修によって、税理士に必要なコンサルティング能力を養うこともできます。

博士後期課程

より高度な研究を行い、「博士（経営学）」の学位取得を目指す

経営学の高度な知識をもって社会に貢献する人材育成を基本とし、自立した研究者、あるいは高度な専門的業務を担う政策担当者として活動できるよう、講義科目は、経営学･会計学の科目群を中心に、幅広い応用分野として経営史、社会経済システム、比較経済体制、資源経済、地域政策の科目を配置しています。これにより院生は個々の専門分野研究を中心に、多面的に学ぶことができます。

研究活動の流れ

（博士前期課程2年分）

1年次 春･夏
- 新入生ガイダンス
- 資料の収集など論文執筆の準備
- 課題レポート提出

1年次 秋･冬
- 資料の収集など論文執筆の準備
- 修士論文のテーマ設定
- 課題レポート提出

2年次 春･夏
- 修士論文作成
- 中間発表
- 課題レポート提出

2年次 秋･冬
- 修士論文計画書提出
- 修士論文提出
- 最終試験（口頭試問）
- 修士号取得

（博士後期課程3年分）

1年次
- 新入生ガイダンス
- 資料の収集など論文執筆の準備
- 課題レポート提出

2年次
- 学会発表･研究誌へ投稿
- 中間発表
- 博士論文計画書提出
- 博士論文作成
- 課題レポート提出

3年次
- 博士論文提出
- 予備審査
- 本審査･最終試験（口頭試問）
- 博士号取得

教員紹介

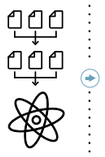
企業活動の生産性をさらに高めるためには?

三輪 冠奈 教授

研究テーマ

企業活動において効率的で効果的なオペレーションを行うための方法について研究しています。特に、生産･流通･サービスなどの企業活動におけるヒト･モノ･情報の流れを対象に、意思決定を行うための定量分析としてシミュレーションを実行するなど、ICTを活用した経営科学における手法についても研究しています。

種々の資料や論文などから学術的背景や最新の情報技術を理解し、問題解決の手法を理解する。



対象現場（システム）を調査し、必要なデータ収集、シミュレーション分析などの適切な分析方法を適用する。

分析結果について、ディスカッションし、マネジメントや分析手法について考察する。

CURRICULUM

※2025年度開講予定のカリキュラムとなります。

博士前期課程

■ 基本科目群
- 経営原理研究
- 経営戦略研究
- 経営管理研究
- 経営システム研究
- マーケティング研究
- 流通システム研究
- 会計学研究
- 管理会計研究
- 財務会計研究
- 経営データ処理研究
- 経営シミュレーション研究
- 金融システム研究
- 証券投資分析研究
- 税法研究1（所得税）
- 税法研究2（資産税）
- 税法研究3（法人税）
- 国際ビジネス研究
- 企業経営特別研究

■ 展開科目群
- マーケティング情報システム研究
- 意思決定支援システム研究
- 財務管理研究
- 人的資源管理研究
- 商品政策研究
- 地域イノベーション研究
- マーケティング事例研究
- 会計監査研究
- 税務会計研究
- 民法研究
- 民法事例研究
- 企業法務研究
- 商事法務研究
- ビジネス紛争処理研究
- 情報処理システム研究
- 経営オペレーション研究
- E－ビジネス研究
- 情報リテラシー研究
- 福祉・医療経営研究
- 経営政策特殊研究1
- 経営政策特殊研究2

■ 演習科目群
- 経営管理系演習
- マーケティング系演習
- 企業会計系演習
- ファイナンス系演習
- 経営情報系演習
- 税法系演習

博士後期課程

- 経営原理特論
- 経営戦略特論
- 経営財務特論
- 金融システム特論
- 企業会計特論
- 管理会計特論
- 税務会計特論
- 財務会計特論
- 経営史特論
- マーケティング特論
- 流通システム特論
- 経営情報特論
- AI経営特論
- オペレーションズ・リサーチ特論
- 社会経済システム特論
- 産業システム特論
- 資源経済特論
- 福祉政策特論
- 地域政策特論
- 外国文献研究
- 研究指導

PICKUP CONTENTS

［税法系演習］

数多くの判例をもとに租税法の理論を構築

本演習で学ぶ租税法は、課税行政庁の課税権行使の規範であるとともに、納税者の申告の規範でもあり、税務訴訟事件における裁判規範にもなります。つまり、租税法を法律学として学ぶには、租税実体法や租税手続法に係る税務訴訟事件における司法裁判所の法的判断を研究し、理論化する必要があります。そこで本演習では、租税実体法全般にわたって裁判例を数多く取りあげ、院生相互の討議形式で判例研究を進めていきます。また、租税手続法上の問題点や租税争訟法の問題点にも触れていきます。

税理士試験の試験科目免除について［ 経営政策専攻 ］

本学大学院では、現役の税理士や弁護士として活躍中の実務家教員が指導にあたっており、学位取得による税理士試験の科目免除制度に対応できる体制を整えています。

対象となる演習｜税法系演習・企業会計系演習

免除となる科目｜税法に属する科目 2科目（税法系演習）／会計学に属する科目 1科目（企業会計系演習）

STUDENT VOICE

自ら学ぶ場所である大学院で知識を深め、視野の広い税理士として活躍したい。

税理士試験の2科目免除制度、論文指導の手厚さなどに魅力を感じ、仕事をしながら大学院で学ぶことを選択しました。研究テーマは「法人税法132条の行為計算否認の在り方について」。過去の裁判例から法人税法132条について多面的な研究を行っています。将来は税法の知識はもちろん、国税や裁判に関する知識も豊富に持つ税理士になることが目標です。顧客に多様な提案をしていきます。

経営政策専攻 博士前期課程修了　加藤 峻一

大学教員としての専門性向上のため進学。自身の学びを学生や地域社会に還元したい。

大学教員の職にあり、専門性向上のために進学しました。本大学院を選んだのは、研究力の高い先生方が学生のレベルに応じて柔軟に指導してくださる、学びやすい環境だと感じたからです。研究テーマは「コミュニティサイクルの持続可能性について」。地域特性を考慮した運用方法を研究しています。大学院でのたくさんの学修を、自分だけでなく学生や地域社会にも還元していきたいです。

経営政策専攻 博士後期課程3年　野場 惇平

博士前期課程 修士論文タイトル例

- ドラッカーの思想研究を行う意義
- 企業国際化理論の変遷に関する一考察 ―ボーン･グローバル企業の形成要因を通して―
- わが国の新リース会計基準に関する一考察 ―IFRS16号の適用による諸問題を中心に―
- 一対比較行列を用いた「重要度ランキング付け」Webサービスに関する研究
- 納税者の権利救済の場面における文理解釈と目的論的解釈の考察
- 債務免除益に係る源泉徴収義務の該当性についての検討

博士後期課程 博士論文タイトル例

- ミャンマーの「体制」転換 ―経済発展戦略の視点から―
- トヨタ自動車80年史論 ―経営パーソンと財務に焦点をあてて―
- 自治体病院改革と地域連携 ―自治体病院の再生と存続をめざして―
- 医療法人の発展と制度改革の課題 ―医業経営における非営利性と営利性のはざまで―
- ベトナムにおける「ドイモイ」前後の政策転換と農業経営の変革 ―21世紀における新たな成長経路を求めて―

外国語学研究科

英語学専攻 修士課程

高度な語学力や知識を深め、英語教育のスペシャリストへ

優れた語学教育の実践に向け 高度な理論とスキルを修得

英語学専攻修士課程では、すでに英語教育に携わっている方、あるいはさらに高度な力をつけてから教育者になろうという方のために、高度な研究プログラムを提供しています。研究領域は、英語の構造を学ぶ「英語学」、音声的な側面から英語にアプローチする「英語音声学」、文学作品から英米の文化と社会を研究する「英米文学」、メディアを利用した外国語教育のあり方を探求する「英語教育工学」、言語学の理論を用いて教育学への応用を考える「応用言語学」の5領域を設定。徹底した少人数教育と実践型学修を行います。また、小学生への英語教育に対応した科目も用意しています。

教育研究上の目的

英語の運用能力を向上させ、その背景にある知識を教授することにより、英語を主とする研究に関して高度な専門知識をもった人材を育成します。あわせて、英語教育の実践力の向上を目指します。

求める人材像

- 英語のスペシャリストを目指す方
- 中学・高等学校の英語教員を目指す方
- 予備校・塾などで英語教育に携わる方

授与される学位

- 修士（英語学）

活躍するフィールド

- 英語教育をはじめとした教育関連分野
- 海運業などの英語を使う業界　など

取得可能な免許

- 中学校・高等学校教諭専修免許状（英語）

研究活動の流れ（2年分）

1年次 春・夏
- 新入生ガイダンス
- 資料の収集など論文執筆の準備
- 課題レポート提出

1年次 秋・冬
- 資料の収集など論文執筆の準備
- 修士論文のテーマ設定
- 課題レポート提出

2年次 春・夏
- 修士論文作成
- 中間発表
- 課題レポート提出

2年次 秋・冬
- 修士論文計画書提出
- 修士論文提出
- 最終試験（口頭試問）
- 修士号取得

教員紹介

小中高等学校における、効果的な英語教育とは?

教育経験、児童・生徒としての経験から授業の情報を交換。合わせて資料などで紹介される教育実践を検討。

教育学の研究手法としての、授業観察、データの入手法、研究テーマの調査などを行う。

研究テーマ、研究手法を決定し調査を実行。その後で得られたデータの意味を授業で議論。

柳 善和 教授

研究テーマ

英語教育学の概要を自分が興味のあるテーマを中心に文献調査を行います。特に、小中高の英語教育について具体例を取り上げながら、実際に調査し、それを中心にして研究テーマを決定します。

英語教育学は理論と実践の研究が統合された分野で、成果が実践で活かされる可能性が高く、やりがいは大きいです。自分が経験した教育も含めて、様々な教育現場を調査しながら研究してください。

Applied Linguistics including Discourse Analysis, Corpus Linguistics and World Englishes

Identify a Topic. Read widely in your area of interest and identify a topic that you are really interested in and excited about.

Develop a Research Plan. Based on your reading, and in consultation with your advisor, make a practical plan for investigating your topic.

Carry out your Research. Collect data, analyze it, write up your results and then publish your research in a journal to share your findings with others.

P.R. モロウ 教授

研究テーマ

Applied Linguistics is about analyzing language and using the results in a practical way, such as to improve English language teaching or cross-cultural communication.

Conducting research is an enjoyable and rewarding activity. Through the graduate school's courses and with the faculty's guidance, you will learn how to design and carry out your own research on topics of interest and importance to you. In this way, you can become part of the worldwide community of researchers dedicated to discovering new knowledge and finding ways of using existing knowledge more effectively.

CURRICULUM

専門科目群

■ 基本科目
- 英語学研究
- 英語音声学研究
- 英語教育工学研究
- 応用言語学研究
- 英米文学研究

■ 特殊研究科目
- 英語学特殊研究
- 英語音声学特殊研究
- 英語教育工学特殊研究
- 応用言語学特殊研究
- 英米文学特殊研究

■ 論文演習科目
- 英語学論文演習
- 英語音声学論文演習
- 英語教育工学論文演習
- 応用言語学論文演習
- 英米文学論文演習

展開科目群

- 英語教育方法論
- 言語習得研究
- 日英語対照研究Ⅰ
- 日英語対照研究Ⅱ
- 異文化間コミュニケーション研究Ⅰ
- 異文化間コミュニケーション研究Ⅱ
- アカデミック・スキルⅠ
- アカデミック・スキルⅡ
- 英語学特論Ⅰ
- 英語学特論Ⅱ
- 英米文学特論Ⅰ
- 英米文学特論Ⅱ
- 比較文学研究Ⅰ
- 比較文学研究Ⅱ
- 日本語教授法特論Ⅰ
- 日本語教授法特論Ⅱ
- 日本文化特論

PICKUP STUDY

［英語教育工学研究］

それぞれの経験も反映させ、英語教育学の基礎を学ぶ

「Harmer, J.(2015)The Practice of English Language Teaching（5th ed.）」をテキストに、基本的な知識に触れながら、英語教育学の基礎を学びます。テキスト自体は英語教育学を網羅的に扱っていますが、実際の授業ではその中から院生の興味関心に合わせて取り上げる項目を決めます。また、併行して、学校現場の実情を自分の経験をもとにして授業で紹介してもらい、テキストの内容がどのように活かせるかについての議論も行います。

［応用言語学研究］

Applied Linguistics is most commonly associated with the area of foreign language teaching, especially the teaching of English as a foreign language.

Applied Linguistics is a broad interdisciplinary field that deals with a variety of language related issues. It overlaps with fields such as education, psychology, sociology, and others. This first part of this course is intended to give students a general understanding of the background, basic concepts, and types of research that are carried out in the area of applied linguistics. Applied Linguistics is most commonly associated with the area of foreign language teaching, especially the teaching of English as a foreign language. The second part of the course is intended to help students gain a thorough understanding of the issues, research and approaches in this area of applied linguistics.

STUDENT VOICE

知識は蓄えるものではなく、活かすもの。社会に出ても大学院で得た知識をしっかり活かしたい。

名古屋学院大学外国語学部の4年次に「大学院進学コース」を履修。これは大学院の英語学の授業を体験できるコースで、その内容がとても興味深く、大学院でさらに言語学を研究してみたいと思い、外国語学研究科への進学を決めました。研究テーマは「日本語における“なんか”と引用助詞“と”」。「私はリンゴなんか食べない」「私はリンゴなど食べない」などの例文を思い浮かべると分かるように、多くの日本語では、“なんか”と“など”を置き換えても意味が通じます。しかし、これが“なんか”と“などと”になると、置き換えが難しくなる。なぜ“なんか”と引用助詞“と”は相性が悪いのか。その理由を説明しようとする試みです。大学院で学んだのは「知識の活かし方」。ただ知識を蓄えるだけでなく、それを自分の研究にどう活かすか。大学院で学んだことを活かし、磨き続けます。

英語学専攻 修士課程修了　籠原 勇太

修士論文タイトル例

- 「ために」文と理由・原因の関係について
- とりたて助詞ナド・ナンカと引用助詞ト
- 音声学習におけるVisual Feedbackの効果に関する研究 ―中国語母語話者の英語母音に着目して―
- 日本の高等学校生徒が用いるメタ認知的学習方略と内発的動機づけについて
- 「オリヴァ・ツイスト」における孤児と犯罪について

外国語学研究科

国際文化協力専攻 修士課程

異文化・異民族の特性を踏まえ、国際間の課題を解決する人材を育成

院生間の相互交流も深め 高次元な国際的視野を養う

国際文化や国際関係について、論理的・実践的な理解を深める「国際文化協力領域」、異文化を理解し異文化間の交流に貢献する実践的知識を修得する「国際文化領域」の2領域からなるカリキュラムで、国際間の課題や問題を的確に捉え、それらを解決へと導くための力を身につけます。講師陣は、日本や中国、東南アジア、ヨーロッパなど各国の専門家が揃い、幅広いエリアの学びをカバー。多彩な研究テーマに取り組める環境です。加えて、中国や東南アジアをはじめ世界各国からの留学生が多いのも大きな特徴です。院生間でも意見を交わし交流することで、多様な価値観を養います。また、実際に現場を訪れて学びを深める機会も多く用意しています。

教育研究上の目的

国際社会のグローバル化、国際間の協力とそれらに付随して発生する異文化間の諸問題とローカルな問題に対応するために高い識見と理解力を養い、日本国内・国外の国際的な文化活動や協力活動に従事できる人材を育成します。

求める人材像

- アジア諸国を中心に、異文化理解や国際協力について幅広く研究したい方
- 日本文化を世界に発信するために、日本語や日本文化について深く研究したい方
- NPOやNGO活動に取り組む意欲を有する方

活躍するフィールド

- 外資系企業、海外に進出する企業、国際機関
- 地域社会、教育機関、官公庁
- 民間研究所、行政機関、大学職員　など

授与される学位

- 修士（国際文化協力）

研究活動の流れ（2年分）

1年次 春・夏
- 新入生ガイダンス
- 資料の収集など論文執筆の準備
- 課題レポート提出

1年次 秋・冬
- 資料の収集など論文執筆の準備
- 修士論文のテーマ設定
- 課題レポート提出

2年次 春・夏
- 修士論文作成
- 中間発表
- 課題レポート提出

2年次 秋・冬
- 修士論文計画書提出
- 修士論文提出
- 最終試験（口頭試問）
- 修士号取得

教員紹介

フィリピンの歴史や日本との関係から、多文化共生を学ぶ。

フィリピンに関して、言語、文化、歴史的に概要をつかむ。

フィリピンと日本との関係について、歴史的（戦争、戦後賠償、政府開発援助）に理解する。

興味を持った事柄に関して、仮説を立て、調べ、プレゼンテーションを行い、ゼミ論文にまとめる。

佐竹 眞明 教授

研究テーマ
国際移民に関連する多文化共生の概念を理解します。そして、その応用ともいえる国際結婚に関して、多文化共生の理念で考えます。特に、東南アジアのフィリピンの歴史や、フィリピンと日本の過去から現在までの関係（戦争、戦後の賠償、政府開発援助）についての研究に取り組んでいます。

研究をまとめる時は苦しい時もあります。しかし、分からないことが分かるのは楽しいことでもあります。自分の関心は何かを突き詰め、そこに邁進していく。進んでいけば、まとまります。恐れずに進みましょう！

日本ならではの武家社会から、日本の歴史・文化を追究する。

日本史特有の「武家社会」の特質を取りあげて、その文化的背景とともに合理的に理解する。

プレゼンテーションとディスカッションから、論理的思考を深め、史料を分析・考察して歴史研究を進める。

日本の歴史と文化に関する先行研究を踏まえ、論理的思考を積み上げて、自身の論文を執筆する。

鹿毛 敏夫 教授

研究テーマ
日本の歴史の展開過程を総合的に考察し、その文化的背景とともに合理的に理解することを目指します。特に日本史特有の「武士」（サムライ）の時代の特質を追究するとともに、先行研究を踏まえた正確な内容理解や史実に沿った批判的考察で、自身の論文執筆への明確な意識を獲得していきます。

「武家社会」に関する歴史文学作品から、時代の認識や捉え方について議論を深めます。演習発表と討論で論理的思考力を培い、史料を分析・考察して歴史研究を進める技術と能力を身につけましょう。

CURRICULUM

専門科目群

■ 国際文化協力領域
- 国際協力特論
- 国際文化交流特論
- 国際関係特論
- 文化マネジメント特論
- ＮＧＯ・ＮＰＯ特論
- 現代欧米文化・社会特論
- 国際機構特論
- アジア中国関係特論
- アジア中国社会文化特論
- 国際移民特論
- 異文化間コミュニケーション特論

■ 国際文化領域
- 国際文化特論
- 日本文化特論
- 比較文化社会特論
- 多文化共生特論
- 国際言語教育特論
- 日本語教授法特論
- 国際環境文化特論
- ジェンダー文化特論
- 宗教・思想・文化特論

■ 共通科目
- 研究方法論

研究指導科目

- 国際文化協力特別研究Ⅰ
- 国際文化協力特別研究Ⅱ

PICKUP STUDY

［研究方法論］

よりよい論文執筆をするために、「研究とは」を学ぶ

修士論文を執筆するためには独自の思考に基づき、独創性、説得力をもち、論文を組み立てねばなりません。梅野潤子『研究ってなんだろう』を用い、研究姿勢、思考方法、論文作成の方法を学習していきます。受講生は研究計画を報告し、担当教員より研究方法上の助言を受けます。

［日本文化特論］

アジアとの交流から、日本の歴史文化を考える

日本の文化は、周辺のアジア諸国・諸地域との接触のなかで育まれてきました。日本と日本人の歴史文化を考えるうえで、アジアとの交流と相互影響の考察は欠かせない視点であり、現代の複雑な国際関係を理解するためにも、過去のアジア交流についての正確な理解が必要です。この特論では、前近代における日本とアジア諸国・諸地域との文化交流の歴史を東アジアから東南アジアにまたがる環シナ海文化圏の広がりのなかで考察・理解していきます。具体的に、「日本文化と唐・宋・元」「室町文化と中華」「南蛮文化」「アジアのなかの日本文化」などのテーマをもとにテキストを講読し、プレゼンテーション資料にまとめて口頭発表などをしてディスカッションを行います。

STUDENT VOICE

大学院で得た国際関係の知識に「体験」を付加することで、自分が将来就く仕事にも活かしていきたい。

国際関係について多角的に、幅広く学びたくて、短期大学から名古屋学院大学外国語学部に編入。短大在学時から関心を持っていたフェアトレードの知識が大学での学修で深まるにつれ、「生じた疑問を自分で解決できるようになりたい」という思いが強くなり、大学院へ進むことを考えました。現在は「市場ベースの国際協力」というテーマの研究に取り組んでいます。SDGsの提唱により、近年フェアトレードの認知度は日本でも大きく上がっていますが、この研究では企業や組織に対して利害関係を持つステークホルダーの連携に着目し、フェアトレードに関する考察と検証を行っています。大学院では、学びたいと思っていた国際的な知識をたくさん得ることができましたが、まだ海外のフェアトレード市場を体験したことがありません。近いうちに海外へ渡航し、これまでに得た知識に「体験」を付加することで、将来の仕事に活かしたいです。

国際文化協力専攻 修士課程修了　柴口 春輝

修士論文タイトル例

- ビルマ（ミャンマー）の民主化と人権
- 代理出産の抱える問題 ―インドでの現地調査を踏まえて―
- 北朝鮮の対米政策：韓国を盾にする外交政策
- 「偽中国語」が日本人中国語学習者に与える影響
- 南・南協力と持続可能な開発に関する一考察 ―中国ＯＤＡの貢献の可能性とチャレンジ―

外国語学研究科 通信制大学院

英語学専攻

博士前期課程　博士後期課程

仕事と研究を両立させる通信教育で専修免許（英語）を取得

博士前期課程

3領域を必修科目にして自信を支える柱をつくる

英語学専攻博士前期課程の研究領域は、言語の構造を学ぶ「英語学」、風土や文化を学ぶ「英米文学」、教授法を学ぶ「英語教育学」の3つです。そして、これらの領域を必修科目として設定しています。関心のある特定の領域だけでなく、他の領域の理解も深めることは、多角的な見識を培うことにつながります。ここで得る多角的な見識は、英語教育や英語を使用するビジネス、研究へ、自信を持って取り組むための強固なバックボーンとなるでしょう。仕事との両立を考える方の要望に応え、学びやすい環境やサポートも重視しながら、学ぶ人の自信の支えとなる高度な学びを提供します。

教育研究上の目的

国際言語である英語について高度な運用を可能にする能力を育成するとともに、その関連領域に関する専門的な知識を総合的に備えた人材の育成を目指し、特に社会人を対象に、通信による指導を基本として高度な専門教育を提供します。

求める人材像

- 学生時代の修得を基礎にしてこれまでの経験を重ね、さらにレベルアップを望む方

授与される学位

- 修士（英語学）

活躍するフィールド

- 高度な英語能力を活かせる職場
- 中学・高等学校の教員　など

取得可能な免許

- 中学校・高等学校教諭専修免許状（英語）

	4月	5・6・7月	8月	9・10・11月	12月	1月	2月	3月
1年次	・学修研究ガイダンス※1 ・春季スクーリング（必修科目）	・課題レポート提出	・夏季スクーリング（必修研究科目／演習科目）	・課題レポート提出	・冬季スクーリング（必修研究科目／演習科目）	・課題レポート提出 ・在宅試験		・修士論文計画書提出
2年次	・2年次スクーリング※2（演習科目） 修士論文作成 →	・課題レポート提出	修士論文中間発表	・課題レポート提出	→	修士論文提出	修士論文口頭試問・審査	

※1　ガイダンスでは修了までの研究計画、各選択科目の内容、課題レポート、単位取得方法、専用ホームページの利用などについて説明があります。※2　2年次演習科目のスクーリングは、所属演習毎に日程を調整して実施されます。

単位認定

必修研究科目 【1科目 2単位 3科目必修履修】	選択研究科目 【1科目 2単位 8科目選択履修】	演習科目 【1科目 8単位 1・2年次通して履修 修士論文作成】
通信指導　：課題レポート提出 **スクーリング**　：各科目春夏冬あわせて6コマ（1コマ90分）受講	**通信指導**：課題レポート提出	**通信指導**　：課題レポート提出、定期的な進捗状況報告 **スクーリング**　：1・2年次あわせて12コマ（1コマ90分）受講

博士後期課程

研究者としての自立した研究活動を徹底サポート

通信教育課程で英語学の博士学位が取得可能な大学院は全国でも希少です。本学の博士後期課程では、「後期研究指導」を履修して研究を深めていくと同時に、学内や学会の紀要への論文投稿、国内外での学会発表も積極的に行います。

教育研究上の目的

英語学専攻博士後期課程は、専攻分野について、研究者として自立した研究活動を支援します。高度かつ専門的な業務に従事するにあたって必要な研究能力、及びその基礎となる豊かな学識を身につけることを目的とします。

求める人材像

- 自立した研究を通して、英語学に関わる研究者を目指す方。また国際社会での活躍を志す方

活躍するフィールド

- 高等教育機関の教育者、研究者　など

授与される学位

- 博士（英語学）

教員紹介

身体経験や認知的営みと、ことばの関係とは?

有薗 智美 教授

講義テーマ

世界に対する私たちの捉え方が反映される、語彙や表現形式の選択。言語を分析することにより、その形式や意味を支える人間の身体経験および認知的営みを明らかにする、認知言語学の基礎と分析の発想法を身につけることを目指します。

書籍や論文により、認知言語学についての基本的な知識および分析の発想法を身につける。

指定教材で例に挙げられている言語現象をヒントに、身のまわりにあることばで類例を探し、考察する。

特定の言語現象の成立を動機付ける、事態に対する「捉え方」を明らかにする。

CURRICULUM

博士前期課程

必修研究科目

- 英語学研究
- 英米文学研究
- 英語教育学研究

選択研究科目

- アカデミック・イングリッシュⅠ
- アカデミック・イングリッシュⅡ
- 談話分析研究
- 英語音声学研究
- 言語学研究
- イギリス文学研究Ⅰ
- イギリス文学研究Ⅱ
- アメリカ文学研究Ⅰ
- アメリカ文学研究Ⅱ
- 異文化間コミュニケーション研究
- 第二言語習得論研究
- 英語教育方法論研究
- 英語教育指導論研究
- 英語教育工学研究
- 教育方法論研究
- 教育心理学研究

演習科目

- 英語学論文演習
- 英米文学論文演習
- 英語教育学論文演習

博士後期課程

選択研究科目

- 英語学特殊講義
- 応用言語学特殊講義
- 第二言語習得論特殊講義
- 日英語意味論特殊講義
- イギリス文学特殊講義
- アメリカ文学特殊講義
- 異文化間コミュニケーション特殊講義
- 英語教育工学特殊講義
- 英語教育指導論特殊講義
- 英語教育学特殊講義

演習科目

- 後期研究指導

PICKUP CONTENTS

［スチューデントコーディネーター］

仕事と院生生活を両立させながら研究を進めていくには、かなりの自己管理力を要します。そこで皆さんの学修計画をサポートするのが「SC（Student Coordinator）」です。事務手続きなどの窓口機能も果たし、自主的に取り組む院生の声に応えています。

［インターネットによる遠隔指導］

本通信制大学院では、入学時に専用のIDを発行し、インターネットを使った遠隔指導を実施しています。本学専用のポータルサイト（CCS）を開設し、学修に必要な情報をいつでも、どこでも収集可能に。自宅にいながら研究活動を行えることが、通信教育の最大の魅力といえます。

STUDENT VOICE

小中学校英語教員としての専門性を高めるために大学院へ。学んだことを教育の現場に活かしたい。

大学卒業後、愛知県の中学校教員として英語教育の現場に携わったのち結婚。家庭を中心とした働き方に切り替え、英会話スクールの講師として幼児や小学生に英語を教えていましたが、子育てが一段落したのを機に小学校の英語教員として再びフルタイムで働くことに。小中学校の英語教育について学び直し、専門性を高めたいと考え、働きながら通信制で英語学を学べる本大学院への進学を選びました。研究テーマは「英語教育の小中連携」。現代の英語教育では、子どもたちの発達段階に応じた学修内容を考えることが求められます。どうすれば子どもたちが意欲的に英語を学ぶことができるか。様々な文献や論文を読み、これまでの日本の英語教育における問題点や課題点を認識しながら、これからの時代に必要な教育方法を考える毎日です。英語教育の小中連携がスムーズかつ効果的に行われるよう、大学院での学びを教育の現場に還元しながら、自分自身も成長を続けていきます。

通信制 英語学専攻 博士前期課程修了　谷内 裕子

修士論文タイトル例

- 日本語の主語について
- 『キャスターブリッジの市長』:ヘンチャードの性格がもたらした没落
- 英語4技能の向上を目指して ―高校の現場における具体的な展開を通して―
- 高校生のための関係代名詞の効果的な指導法
- 小学校英語教科書比較 ―CLIL関連個所について―

博士論文タイトル例

- 幼児を取り巻く英語環境 ―未就学児の英語教育を通して―
- グローバル人材育成における英語ディベート実践の重要性に関する考察
- Remotivation が発生する条件とは何か ―日本の高等学校生徒の英語学習に焦点をあてて ―
- 早期L2英語教室のオーラル・コミュニケーション活動 ―談話における理論と実践の統合を探る―
- 小学校高学年児童に効果的な外国語授業構成についての考察 ―改訂型PPP・TBLT型・折衷型授業構成による単元指導の比較検証―

支援制度

奨学金について

◎日本学生支援機構奨学金

奨学金種類	課程	貸与	貸与期間
第一種（無利子）	修士・博士前期	50,000円、88,000円から選択	最長2年
	博士後期	80,000円、122,000円から選択	最長3年
第二種（利子付）	修士・博士前期	5·8·10·13·15万円から選択	最長2年
	博士後期		最長3年

※ 学業成績・家計状況などを複合的にみて選考が行われます。

◎名古屋学院大学大学院奨学金（給付型）

対象	支給額（年額）
通学制	24万円
通信制	10万円

※ 申し込みには一定の条件及び、採用人数による制限があります。
※ 秋学期学費より減免します。

◎その他奨学金

奨学金の募集案内は掲示などで情報提供します。
金額や期間は団体によって異なります。

研究支援制度について

◎長期履修制度

長期履修制度とは、職業を有しているなどの事情により、通常の修業年限では大学院の教育課程の履修が困難な方に限り、標準修業年限を超えて計画的に教育課程の修学を行う制度です。認められれば、標準修業年限の授業料で最大その2倍の期間まで在学できる制度で、入学前と在学中の2月（最終年次を除く）に申請することができます。

◎研究奨励金

大学院教育研究振興補助金

本学院生または指導教員が学術論文、著書を公刊した場合、そこに至るまでに要した教育研究費用に対し、一定の条件のもとで、個人研究10万円、共同研究は1人10万円として人数分合計額を、それぞれ限度額として支給します。

大学院生共同研究・プロジェクト型研究奨励金

院生が行う共同研究またはプロジェクト型研究に対して大学院生研究奨励金を1件あたり年間15万円を限度とし、支給します。

◎教育訓練給付制度（一般教育訓練講座）

対象者	雇用保険の一般被保険者（在職者） または一般被保険者であった方（離職者）
対象コース	経済経営研究科経営政策専攻（博士前期課程） 通信制大学院外国語学研究科英語学専攻（博士前期課程）
支給金額	最大10万円 修了後、ハローワーク（公共職業安定所）から支給されます。

※ 一定の条件があります。詳細はお近くのハローワークにお尋ねください。

学費支援制度について

◎学費分納制度（通学制）

経済的な理由により、当該学期の納付期限までに学費の一括納付が困難な事情が発生した場合に限り、定められた期限に所定の手続きを経て大学の許可を得たうえで、当該学期の学費を3分割して納付することができる制度です。

◎私費外国人留学生授業料減免制度

本学大学院の正規課程に在籍する私費外国人留学生で、経済的理由により修学困難な場合、一定条件を満たせば、学業継続を支援することを目的にその年度の授業料の50%を減免する制度です。

◎大学院シニア学生授業料減免制度

本学大学院の正規課程に在籍する学生（入学年度4月1日現在の年齢が満55歳以上）の方を対象に、一定の条件を満たした場合に、入学年度授業料の50%を減免する制度です。

制度の詳細については、
大学院事務室までお問い合わせください。

学費について

項目	通学制（2024年度学費）				通信制（2024年度学費）			
	1年次		2年次以降		1年次		2年次以降	
	入学手続時（春学期）	秋学期	春学期	秋学期	入学手続時（春学期）	秋学期	春学期	秋学期
入学金	200,000円	—	—	—	200,000円	—	—	—
授業料	370,000円	370,000円	370,000円	370,000円	270,000円	270,000円	270,000円	270,000円
学期の合計	570,000円	370,000円	370,000円	370,000円	470,000円	270,000円	270,000円	270,000円
年間の合計	940,000円		740,000円		740,000円		540,000円	

施設紹介

①名古屋キャンパス（ひびの・しろとり・たいほう）

名古屋キャンパスひびのへは、最寄りの日比野駅まで金山駅より地下鉄名港線で3分、栄駅からも11分、名古屋駅からは16分と通学の利便性も良く、日比野駅からは5番出口を出てすぐと優れた環境になります。

②学術情報センター（名古屋キャンパスしろとり）

名古屋キャンパスしろとりの3・4階にある学術情報センターは図書館とラーニング・コモンズの機能を兼ね備え、約40万冊（うち洋書は約11万冊）を所蔵。資料が閲覧できる3階は読書や勉学のための静的学習空間として、パソコンなどの機器が揃い、グループ学習も可能な4階は動的学習空間として、学習スタイルに合わせて活用できます。

③キャリアセンター（名古屋キャンパスしろとり）

学生の就職活動全般を支援するキャリアセンターでは、就活に関するガイダンスを開催したり、履歴書作成や面接などの対策講座を企画・実施しています。個別指導にも応じており、一人ひとりに合わせた実践的なアドバイスを行います。

よくある質問

通学制

Q 01 他大学、他学部出身でも受験できますか?

A 出身にはこだわりません。社会人・留学生の方もぜひ受験してください。

Q 02 「社会人等を対象」とのことですが、社会人の定義はなんですか?

A 出願資格では「4年制大学卒業後、原則として同一の企業、官公庁、教育・研究機関等において、2年以上の勤務経験（入学時）を有する者」のことを指します。職種は特に問いません。

Q 03 短期大学卒業、専門学校卒業でも入試を受けられますか? 大学を中退している場合はどうなりますか?

A 修士課程・博士前期課程においては、「個別の入学資格審査により、大学卒業と同等以上の学力がある」と本研究科において認めた方に出願資格が認められます。個別の入学資格審査をいたしますので、事前に必ず大学院事務室まで問い合わせてください。

通信制

Q 01 他大学、他学部出身でも受験できますか?

A 博士前期課程については、出願に際して出身学部は問いませんので、ぜひ受験してください。後期課程への出願条件については大学院事務室までご相談ください。

Q 02 科目等履修生で学びたいのですが、可能ですか?

A 原則として、大学を卒業された方、または同等以上の学力があると認められる方に受講いただけます。なお、正規の院生が履修していない科目は不開講となりますのでご了承ください。

Q 03 短期大学卒業、専門学校卒業でも入試を受けられますか? 大学を中退している場合はどうなりますか?

A 博士前期課程においては、「個別の入学資格審査により、大学卒業と同等以上の学力がある」と本研究科において認めた方に出願資格が認められます。個別の入学資格審査をいたしますので、事前に必ず大学院事務室まで問い合わせてください。